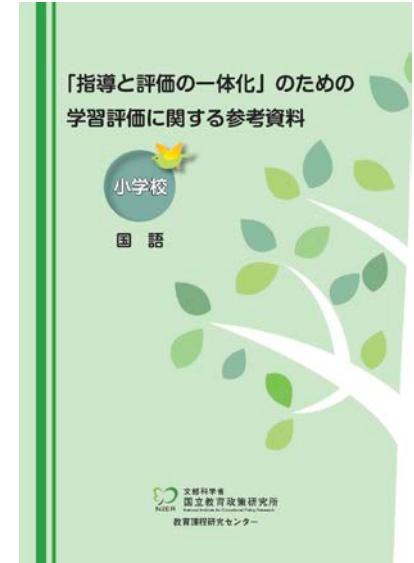


新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 国語科)



文部科学省
初等中等教育局
教育課程課 教科調査官 大塚健太郎

目次

- 1.「内容のまとめごとの評価規準」の作成について
- 2.単元ごとの学習評価について

0 – 1 学習評価の改善の基本的な方向性

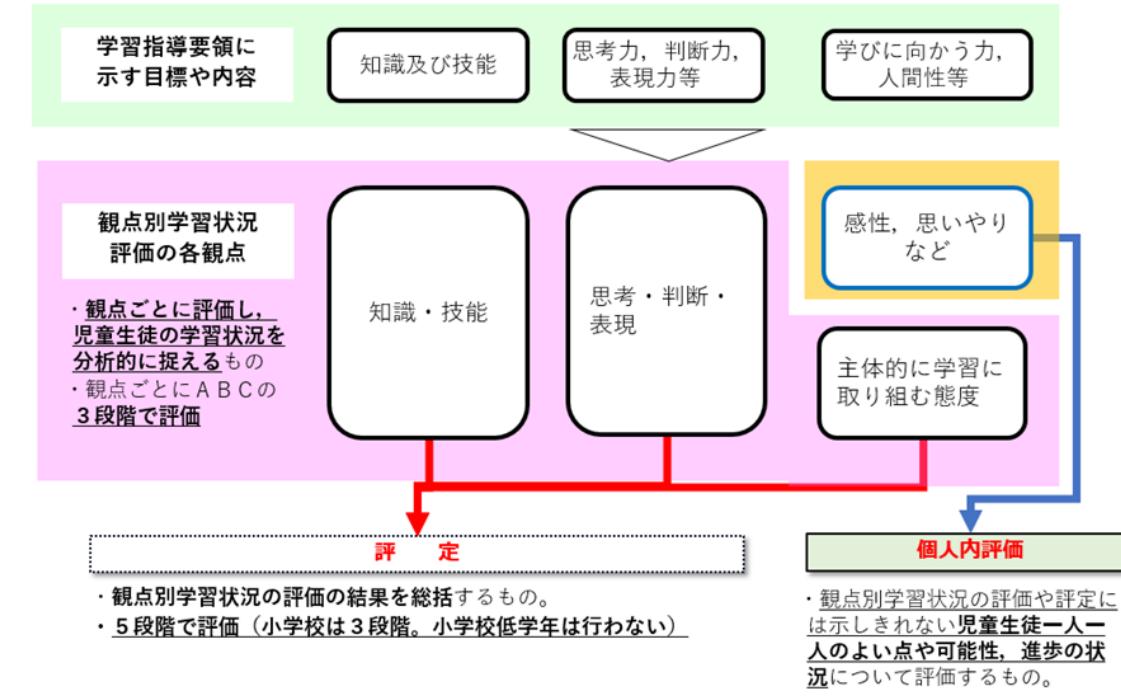
学習評価について指摘されてきた課題に応えるとともに、学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方にして、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要であること。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは
見直していくこと

0 – 2 学習評価の基本構造

各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標標準拠評価）
- ・したがって、目標標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



1 – 1 「内容のまとめごとの評価規準」の作成について

- 学習指導要領の「2 内容」には、育成を目指す資質・能力（指導事項）が示されている。



- その「2 内容」に示されている育成を目指す資質・能力（指導事項）は、そのまま単元の目標になりうる。



- 育成を目指す資質・能力（指導事項）の文末を「～すること」から「～している」（児童が資質・能力を身に付けた状態）と変更することで、「内容のまとめごとの評価規準」になりうる。

☆国語科においては、
「内容のまとめごとの評価規準」を
「単元の評価規準」とすることができる。

1 – 2 「内容のまとめごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、

- ① 各教科における「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係を確認する。
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめごとの評価規準」を作成する。

参照：「参考資料」第1編第2章1（2）「内容のまとめごとの評価規準」とは

1 – 3 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解

- ❖目標に準拠した評価を行うために教科の目標を踏まえて「評価の観点及びその趣旨」が作成されていること
- ❖同様に、学年の目標を踏まえて「学年別の評価の観点の趣旨」が作成されていること
- ❖「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、教科及び学年の目標の（3）に対応するものであるが、観点別学習状況の評価になじむものをその内容として整理し、示していること

を確認することが必要。

1 – 4 「内容のまとめごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

各教科における「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係を確認する。

「内容のまとめ」

[知識及び技能]	[思考力, 判断力, 表現力等]
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと

「評価の観点」



1 – 5 観点ごとのポイント

【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○ 「知識・技能」のポイント

- 基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

○ 「思考・判断・表現」のポイント

- 基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。なお、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。

- 評価規準の冒頭には、当該単元で指導する一領域を「(領域名を入れる)」において、」と明記する。

1 – 6 観点ごとのポイント

【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。文末は「～しようとしている。」とする。

「学年別の評価の観点の趣旨」においては、主として、

- ① に関しては「言葉を通じて積極的に人と関わったり」、
- ② に関しては「思いや考え方をもったりしながら（思いや考え方をまとめたりしながら）、（思いや考え方を広げたりしながら）」が対応する。①、②を踏まえ、当該単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて文言を作成する。

1 – 7 観点ごとのポイント

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価するため、下記③、④に示したように、特に、粘り強さを發揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想し、評価規準を設定することが大切である。このことを踏まえれば、①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。なお、〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。

- ①粘り強さ 〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整
〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- ④当該単元の具体的な言語活動
（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

2 – 1 単元ごとの学習評価について

Step 1

単元で取り上げる
指導事項の確認

- ・年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認する。

Step 2

単元の目標と
言語活動の設定

- ・**Step 1**で確認した指導事項を基に、以下の3点について単元の目標を設定する。
 - (1) 「知識及び技能」の目標
 - (2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標
→(1), (2)については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。
 - (3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標
→(3)については、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。
- ・単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付ける。

まずは
指導事項

2-2 単元ごとの学習評価について

Step 3

単元の評価規準の設定

- 以下を参考に、単元の評価規準を作成する。

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記し、文末を「～している。」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方

以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようとしている。」とする。なお、〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。

- ①粘り強さ（積極的に、進んで、粘り強く等）
- ②自らの学習の調整（学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等）
- ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

言語活動そのものを評価することではない。

「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」を評価できる評価規準を設定する。

2 – 3 単元ごとの学習評価について

Step 4

単元の指導と評価
の計画の決定



Step 5

評価の実際と手立
ての想定

- 各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。

- それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）への手立てを想定する。

内容や時間のまとめごとに、それぞれの実現状況を把握できるように、評価する時間、評価する材料、評価方法などを精選しておく。

2 – 4 評価事例（単元の目標）

国語科 事例 1

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名

夏休みの思い出を報告しよう
(第2学年) A話すこと・聞くこと

内容のまとめ

第1学年及び第2学年

〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」

1 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ
- (3) 話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)エ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

単元の目標は、

☆ 〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕に関する目標は、基本的に、指導事項の文末を「～ができる。」として示す。

☆ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標は、いずれの単元においても当該学年の学年目標である「言葉がもつよさ～伝え合おうとする。」までを示す。

2－5 評価事例（単元で取り上げる言語活動）

2 単元で取り上げる言語活動

夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 A(2)ア)

単元など内容や時間のまとめを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の**主体的・対話的で深い学びの実現を図るように**すること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、**言語活動を通して**、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

2 – 6 評価事例（単元の評価規準）

冒頭には、当該単元で指導する一領域を
「(領域名を入れる)」において、」と明記する。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話の中を使っているとともに、語彙を豊かにしている。((1)オ)  該当する指導事項	①「 <u>話すこと・聞くこと</u> 」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ②「 <u>話すこと・聞くこと</u> 」において、話し手が知らせたいことを落とさないよう聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)	①進んで、相手に伝わるよう話す事柄の順序を考え、 <u>学習の見通しをもつて報告しようとしている</u> 。

「進んで」→「粘り強い取組を行おうとする側面」
「学習の見通しをもつて」→「自らの学習を調整しようとする側面」

2 – 7 評価事例（指導と評価の計画）

4 指導と評価の計画（全 7 時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none">○ 夏休みの思い出を報告するという学習の見通しをもつ。○ 夏休みの思い出を複数想起し、その中から最も友達に報告したいことを選ぶ。	<ul style="list-style-type: none">・児童の伝えたいという思いを引き出すために、教師が自身の思い出を紹介するなどして、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようとする。・夏休みの思い出の中から、伝えたい思いの強さを手掛かりにして、一つを選ぶように指導する。	
2		<ul style="list-style-type: none">○ 「始め－中－終わり」といった話の構成で話すことを確認し、「始め」と「終わり」については先にノートに記述する。○ 「中」の部分については、第1時で選んだ最も報告したい思い出を詳しく想起して、必要な事柄を四つから六つ程度カードにそれぞれ書き出す。 （カードの種類（例））・ 見たこと・ したこと	

評価する観点、
評価方法
を示している。

〔知識・技能①〕
カード
・事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉の文意に沿った活用状況の確認

2 – 8 評価事例（観点別学習状況の評価の総括）

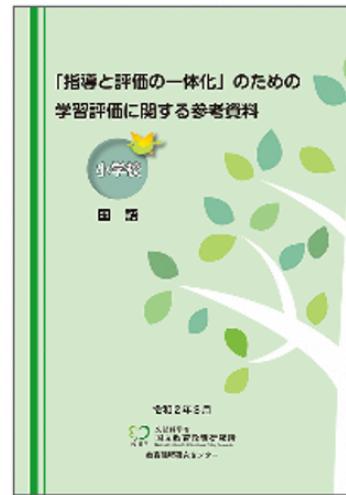
表 1 「評価メモ」の例

評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
単元の評価規準 (※◎印は重点)	①	単元における評価	①(◎)	②	単元における評価	①	単元における評価	①
時間	2・3・4		2・3・4	5・6・7		2・3・4		
評価方法	カード		ワークシート①	ワークシート③		観察・ワークシート②		
評価	児童1	B	B	B	B	B	B	B
	児童2	B	B	A	A	B	B	B
				聞き手に伝えるための効果的な表現について記述あり。				
児童3	A	A	A	A	A	A	A	A
	見たことやしたことについて思ったことを加えていたり、様子を表す言葉を用いたりしている。		聞き手に与える印象の記述あり。	自分の経験と関連付けた感想あり。		友達の並び順について助言あり。		

単元の中で重点的に指導及び評価する指導事項に該当するものに◎

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

こちらに詳しく解説
されております



事例 1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで
「夏休みの思い出を報告しよう」(第 2 学年)

事例 2 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価
「世代による言葉の違いについて意見文を書こう」(第 6 学年)

事例 3 キーワード「知識・技能」の評価
「読書に関する情報を読んで活用しよう」(第 5 学年)

事例 4 キーワード「思考・判断・表現」の評価
「読んで感じたことや考えたことをまとめよう（ごんぎつね）」
(第 4 学年)

新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 国語科)

文部科学省
初等中等教育局
教育課程課 教科調査官 大塚健太郎
ご静聴、ありがとうございました。